

周防大島町の話題



▲保護司会の新山会長から藤本町長にメッセージが伝達されました

社会を明るくする運動

7月1日、「社会を明るくする運動」を広く周知するため、大島保護区保護司会と大島地区更生保護女性会が中心となり、各庁舎で内閣総理大臣からのメッセージを伝達しました。

社会を明るくする運動は、犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生への理解を深める全国的な運動で、7月は運動の強化月間となっています。

ニホンアワサンゴの飼育に挑戦

7月12日、周防大島高校で、ニホンアワサンゴの飼育がはじまりました。

これは、普通科環境コース「環境科学」の授業の一環で行われるもので、ニホンアワサンゴの飼育を通して、海洋環境の保護などについて学びます。

3年生の松本向日葵さんは、「繁殖まで持っていったら」と、飼育にあたっての思いを話しました。

また、大田真一郎校長は、「将来的には、もっとたくさんの水槽を設置し、広く島内外の方に、ニホンアワサンゴを気軽に見ていただけるようになれば」と話しました。



▲ニホンアワサンゴの位置を調整する生徒さん

▶参加者による海岸清掃の様子



▶左側正面の絵を沖浦小学校3・4年生が、右側側面の絵を海洋クラブ生が作成



人が来るほどきれいな浜へ

周防大島町B & G艇庫に、山口県で初となる漂着ごみ専用ごみ箱「拾い箱」が設置され、7月22日にお披露目会が行われました。

拾い箱の設置は、日頃から誰もが気軽に漂着ごみを回収することができる環境を整えることを目的に今年度から始まったB & G財団の取り組みです。海岸を訪れる多くの方が漂着ごみを回収、海洋ごみの削減に取り組むことで、海洋環境保全の意識向上ときれいな海を後世に残すことをねらいとしています。

沖浦小学校4年の重村柚花さんは、「たくさんの人にごみを拾ってほしいです」「海がどんどんきれいになってほしいです」と設置にあたっての思いを話しました。

また、当日は、参加者による海岸清掃と「海洋ごみが海洋生物に与える影響」をテーマに海洋生物のフィールドワークも行われました。